



# Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 **東京多摩グリーンロータリークラブ**

1991~1992年度クラブ目標 “親睦と奉仕の流れを創ろう”

## 第44回例会報告 (9/18)

特別代表 由井 重光  
司会 SAA 北村 幸彦  
☆ 点 鐘 会長 田中 實  
☆ ローターソング「奉仕の理想」  
ソングリーダー 杉田 誠  
☆ お客様紹介 会長 田中 實  
佐伯 和廣 (当クラブ入会予定者)

☆ 会長報告 会長 田中 實



- \* 昨日 (9/17) 多摩東分区会長・幹事合同会議。
- \* 年間行事 (今年1年のイベント) の追加補正説明がありました。
- \* 10/9三分区連合のIMがあります。

### 特にお願

IMには全員参加をお願いします。  
会場は《府中の森芸術劇場》です。オープンしたばかりの見事なところです。

## ☆ 幹事報告 幹事 宮本 誠

\* クラブ例会場変更のお知らせ  
・東京調布むらさきRC  
新例会場 調布クレストンホテル  
バルコ 8F (調布駅北口)  
TEL 0424-89-5000 ・ビジターフィ3500円

\* 東京目黒RC  
新例会場 目黒雅叙園2F (華しらべの間)  
TEL 03-3491-4111

\* (10/9) IMは全員登録です。当クラブの例会もIM振替です。

IMに欠席しますと例会欠席扱いになりますので是非参加して下さい。と云うよりは参加する義務があるという様に考えて戴きたいと思います。

\* (10/2)の定例理事会はスポンサークラブ直前会長の叙勲パーティが京王プラザホテルで11時より行われ、当クラブより会長・幹事・副会長が出席しますので定例理事会は取り止め、臨時理事会を(9/25)夜間例会前17:00より行いますので宜しくお願い致します。

\* 趣味の調査について

まだ提出されていない方は急いで提出して下さい。これは親睦委員会でアンケート調査をして戴いておりますが、同好会を作



って行こうとか、いろいろ熱心にやって戴いておりますので宜しくお願い致します。  
\*風間会員よりドイツ、アイルランドのパナーを戴いております。回覧しますので御覧下さい。

## ☆委員会報告

### ★出席委員会

〔出席報告〕

吉原光太郎

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本日報告	39	31		8	79.49%
前訂正	39	33	5	1	97.44%

〔先週のメイクアップ〕

風間(9/10:Kイツ)  
北村(9/9:調布)  
菊地(9/17:多摩)  
田中(9/13:狛江)  
隅(9/13:新宿)

〔欠席届者〕大松、

遠藤・萩生多、

中山、奥木、隅、戸田、横倉



### ★親睦委員会

城倉 正博

#### ニコニコBOX

北村 幸彦 今日は司会役を命じられました。

永田 健作 会場を私共の都合で変更させて頂いて。

宮本 誠 テルテル坊主に願いをかけて。

伊神 稔 早く天気にナシ。

猪股 末男 出席 100%に強力出来ず深く反省して居ります。宜しく。

松原 健 1人の会員の為 100%達しません。残念でした。次回ガンバル様。

橋口 洋三 一年振りのサンピア多摩の例会なので。

城倉 正博 L. Aに出かけます。

以上合計 16,000円

※趣味の一覧表が出来上がりました。今日は配布できませんが、次回配布出来ると思います。皆さん沢山趣味を持っておられます。例えばゴルフ、テニス、野球、スキー、釣、写

真、尺八、水泳、ホウリング、囲碁、剣道、その他、ゴルフが一番多かった様です。

野球をされる方が5名でした。今年は分区的野球大会に人数不足の為参加出来ませんでした。テニスをされる方は野球も出来ると思いますので、次回の野球大会には参加したいものです。宜しくお願い致します。



### ★雑誌委員会

「ロータリーの友の紹介」

伊神 稔

9月号ロータリーの友を初めて読みました。読みまして自分なりに色々感じた事は、本年度のサブ会長がテーマに上げておられます事に関して各地区のガバナーが所見を述べておられます。それらを読んでいきますと自分なりに成る程な〜と感動する点と全く判らない詩が書いてあったり、色々様々ですけれども、非常に言葉では表せない何かを読み取れるのと、それぞれご立派な方達の本当の心を文字に表していると思います。私達が一生ロータリアンとしてやって行ってもガバナーになれるとは思っておりませんけれども非常に勉強になります。今月号も先月号に続いて文字になっておりますので一読して頂きたいと思います。

それからシリーズで8月号がテレマーケティング、9月号は新しい電話の世界と我々営業の世界にありますと、毎日毎日沢山電話が入ってくる、そういう様なこれからの電話セールス及び移動電話又時間との戦い等々勉強になる記事が載っておりました。



## 【卓話】

### 《青少年問題と人間の尊厳》

—— 子供に対する大人の責任とは ——

高野 範城

## 1. はじめに

本日お話をする問題は「青少年月間」である9月に、青少年委員会で青少年問題に関する卓話をするようにこのことに端を発しています。そこで法律家として私が関心を持っている家庭に於ける親と子の接し方や子育ての上での学校や地域社会の在り方並びに多摩市青少年問題協議会の連光寺、聖ヶ丘地区委員会の役員として私共が日常どのような思いで子供達の健全育成の仕事に関与しているかを中心にしてお話をしてみたいと思います。



## 2. 最近の二つの事件の意味するもの

最近10数年間に発生した少年非行の事件のうち、世の親たちに深い衝撃を与えた事件が二つあります。一つは昭和63年暮から同64年1月にかけて発生した女子高生に対する監禁、殺人事件、コンクリート殺人事件であり、他の一つは金属バット殺人事件です。事件の内容については既に新聞や判決で明らかになっていますのでここでは詳しくは触れられません。ここでは二つの事件を青少年問題として考えるに当たって、どのような今日の問題があったのかという視点からふれてみたいと思います。

まず女子高生生の事件では複数の少年が40日近く特定の家に女子高生を監禁し、少なからぬ子供たちが当該の家に出入りしていました。しかるに当該の家の親は、どうして子どもたちの暴力行為等を止めたり、女子高生を家に帰えさせるべく警察等に通報しなかったのか、監禁に関与した子ども達は逮捕された子どもを含めて10人を越えているはずであるのに唯一人として目撃した状況を親たちに告げなかったのが問題となります。ここで問われているのは子ども達の友情、正義感、勇気のありようであり、親と子の日常の接し方と会話のありようであります。これが家庭内で全くといってよいほど不十分であったからこそ悲劇的事件が発生したと言えます。

次に金属バット殺人事件は今日の子どもに受験が大きな「重し」となっていること、受験以外の価値観や生き方を親と子が子育ての中で日常的にどう作りあげていくか、別言すれば家庭の暖かみとは何か、家庭の役割とは何か問われた事件であります。つまり、今日の家庭は親と子、兄弟等の対話や確執を通じて子どもが人格を形成する場になつていないということがあります。偏差値を中心とする受験的努力の有無が重視され、それが家庭に土足で入り込んでいるのに、これとの闘いを夫婦、親子が博愛、正義、勇気の視点から真剣になつて取組まないのは何故かという問題であります。

この二つの事件は私達の子育てのあり方に多くの教訓を与えているにもかかわらず、多くの親が我が子、我が家にこのような事件が発生しなかったことを喜ぶだけで、これを土台にして自分たちの生き方の基本、つまり仕事と家庭の関係、親子の対話、子どもに広い視野からの人生設計を与えるという親の責任の問題や地域社会との関わりなどについて考える人が少ないのは誠に残念であると言わねばなりません。

## 3. 遊びと家庭の役割

私は昭和20年代から30年代半ばの時期に、小、中学校を田舎で過ごしました。学校から帰ると大勢の上級生や下級生と一緒に道路や空き地で遊びました。私達の世代頃までの子どもは異なる学年の子どもたちとの遊びを通じて人間性を成長させ、開花させたと言えます。リーダーシップや勇気、仲間に対する思いやりなどを通じて遊び仲間から信頼され、自分の人格を築いてきたと言えます。しかし昭和30年代後半からの高度経済成長は、子どもたちから遊び場を奪い、友達を奪うに至っています。道路には子どもたちの人影が消え、車が氾濫し、子どもは遊びを通じて人格を形成する機会を奪われています。家庭にあっては、父親は「企業戦士」として残業をし、子どもは塾通いを強いられています。親と子が時間をかけて、人生の目的を話し、職業選択の重要性やスポーツ、春や秋に自然の

中での親と子の散策を通じて団楽する機会さえもありません。これでは子どもの人格は家庭でも形成されません。ゆとりを奪われた親と子がたまに話をするのは学校の成績と進学先のことで。前述した子どもが成長する上で最も重要なテーマが家庭で日常的に話し合われず、最終の選択である就職、進学のことのみを話し合うというのでは家庭の役割を忘却しているとのそしりを免れないものがあります。

#### 4. 地域の教育について

私達の住んでいる連光寺、聖ヶ丘地区は旧住民と団地の人を中心とする新住民が混在する地区です。私達の青少協では、子どもたちを地域で育てるということを重視しています。私達は子どもが「地域の中で生活しているうちにさまざまな体験を重ねるので、子どもは地域を通してすこやかに成長する」と考えています。それ故毎年正月には1000人の子どもたちを集めての「どんと焼」を行ったり、夏には小、中学生の交流を目的にした茗キャンプをしたり、秋には約20チームが参加して中学生と親との地域対抗のソフトボールの試合をしています。また当地域のスポーツ振興会と協力して地域大運動会（3000人参加）をしたり、自治会や子ども会とも協力して七夕や夏祭りの際にお御輿のリレーをしたりしています。

更に毎学期初めの1週間は、聖小、連小、聖中の三つの学校でPTAの協力の上で「あいさつ運動」を校門前で実施しています。この「あいさつ運動」は地域の親が日常、どれだけ沢山の子もたちと接しているかが成功の要です。我が子のことしか念頭にない親がある日、突然校門前に立ってよその子どもに挨拶をしたとしても、子ども達はとまどうばかりの筈です。地域において自分の子どもを大切に扱って欲しいと考える親ならば、他人

の子どもにも同じような愛情を、普段の生活の中でも注ぐことが肝要です。

私達の地区委員会は、子育てにあたって学校、家庭、地域がそれぞれの相違を自覚し互いの役割を果たしながらも、前記の三つが努力し合うことの重要性を強調しています。常に前記の三つが連絡をとりあえる体制作りを目指しています。年に1、2回は講演会や懇談会を開いたり、忘年会等の懇親の場を大切にしています。

ところで私達が地域で子どもを育てていく目的は、友達同志の友情と連帯感を深め、一人ひとりの子どもが自立し、正義感をもって行動出来るようにするところにあります。そのためには地域の教育環境をそれに相応しいものにする必要があります。地域の環境が荒れていると学校の中でも生徒たちが荒れることとなります。家庭に問題が多い子どもは勉学に専念出来ないこととなります。私達は学校、自治会、PTA、子ども会、保護司、民生委員、駐在の人々と協力しあって地域の教育環境の整備に努め、子どもが生き生きするような街づくりを目指しています。これらのことは子どもたちの遊び場を奪い、学校社会で受験を重視せざるを得ない社会を作りあげた、せめてもの大人の子どもに対する責任といえます。

ちなみに国連が一昨年全会一致で採択した子どもの権利条約をうけて制定された「少年非行の予防のためのガイドライン」（リヤドガイドライン）は「少年非行の予防が成功するためには幼児期からその人格の尊重と向上を念頭において、調和のとれた成年期の発達を確保する努力を社会全体で行う必要がある」としています。青少年問題で問われているのは、私達がどれだけ、一人ひとりの子どもを大切に作るネットワークを地域において作るかであり、その際にこどもの人格と尊厳をどのように形成するかであります。



## 東京多摩グリーンロータリークラブ

会長 松山 壽 副委員長 奥田文夫・委員 赤尾泰雄  
幹事 宮本 誠 須藤二朗・連守弘重・橋口洋三  
会務委員長 坪田 繁太郎

※例会場 多摩そごうデパート7F サブテイマインサットルーム

事務所：東京都多摩市落合547  
多摩センタービル7F

TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30